

平成 26 年度イシガキダイの部チャンピオンの浅野氏にきく

釣り人：シルバー磯釣クラブ会長 浅野桂一氏

釣り日：2014年4月27日

記録：イシガキダイ 73.2cm、7430g（平成26年度関東支部イシガキダイの部
チャンピオン、三宅島最優秀釣魚賞）

イシガキダイ 70.0cm、5430g(大型賞)



今回は平成 26 年度関東支部イシガキダイの部チャンピオンと三宅島最優秀釣魚賞をダブル受賞されたシルバー磯釣クラブの浅野桂一氏に、絶滅危惧種(味)となったイシモノ釣りの極意を竜宮会の石井がお聞きします。

石井:おめでとうございます。70センチ超えのイシガキダイを1日に2枚とはただただ驚くばかりです。さっそくですが、マル秘の釣り場所を私にだけ教えてください。

浅野:40年前から三宅島三本マカドの神津向かいに通っていますからマル秘ではありません。本場、井戸など好釣り場がありますが、大型の実績という点で神津向かいが一番だと思っています。よく色々な磯に行く人がいますが、どこで大型が来るかを熟知している磯が一番です。

石井:当日は多くの釣り人がいたと思いますが、浅野さんの釣り座の選択はどうでしたか。

浅野:今回の釣行は土日の2日間でした。神奈川支部の釣友などと計8名でマカドの神津向かいで釣りました。私の釣り座はテラスの左側にマル秘の目印があります。40年も前からここに決めています。

投げ方は剣道の面を打つようにしっかり構えて同じ場所に餌が落ちるように投げます。毎回同じところに投げられるように練習しました。1mでも違えばエサ取りが無いこともありますし、大物を逸したという経験もあります。今回はリールのカウンターの指示で32mの所を集中して投げました。

潮時を逸さないように、針を2つ用意して投げたらすぐ次の餌を針に付け、1分間隔でも交互に投げられるように準備していました。図1に描いたように御蔵からの非常にいい潮が流れていて土日ともに活発に餌を追いました。土曜日は8名で2~4キロほどのイシガキダイとイシダイを15枚、日曜日は半日で20枚でした。大型は私の2枚だけでしたが、半日でウニ100個も使いました。

石井:チャンピオン魚はいつ来ましたか。

浅野:6時半頃から釣り始め、7時半に73.2cm、7430g、8時15分頃に70.0cm、5,430gが来ました。沖に一気に走られて竿が真っ直ぐに伸びた状態になりました。のされないように股間に竿を入れ、あわてずにリールを巻きあげて寄せました。10分ぐらいかかったと思います。磯に上げる時は友人が糸をとってくれました。そういう友人がいることも大物を取り込むときには必要です。

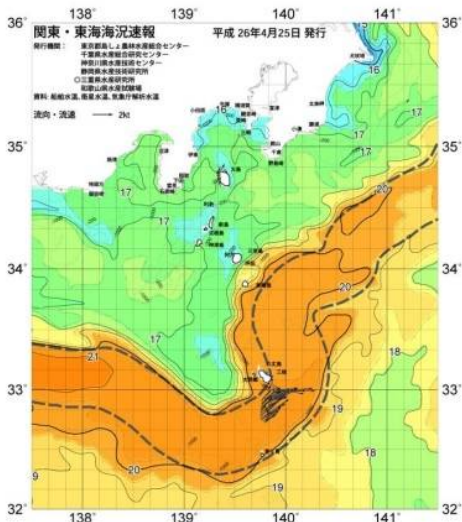
石井:当日の潮について調べてみました。図2に示したように、2014年の春は黒潮が蛇行していて、冷水塊が伊豆七島に居座っていました。図3に示したように、4月12日以降には水温が急に16℃台に下降、その時に古川氏(東磯)と山里氏(竜宮会)が大型のイシダイとイシガキダイを釣っていました。その後16℃台が続き大型魚はあがりませんでした。4月25日(金)の三宅島の水温は16.8℃でした。図2に示した海況速報で分かる様に、黒潮の分流が三宅島方面に押し出し始め、週明けの28日(月)には18.1℃に上昇していました。マカドの潮はどうでしたか。

浅野:図3のグラフで一目瞭然ですね。4月27日は水温変化図で分かる様に、ちょうど潮の変わり目だったといえます。4月12日もそうですね。大型のチャンスだったとい



図1. 三宅島三本マカド

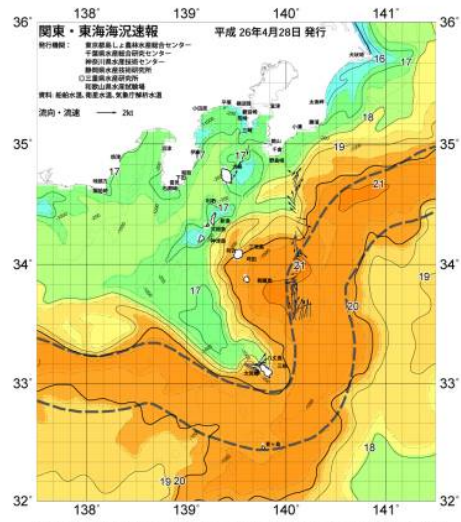
(a) 4月25日



黒潮は八丈島の西で蛇行し、八丈島の東を北流した後、御蔵島の東から房総半島沖へ北東に流去している

	大島	新島	式根島	神津島	阿古	御蔵島	三根
水温	16.4	16.3	17.3	17.2	16.8	18.6	20.0
前日差	-0.1	-0.1	-0.1	+1.4	-0.3	+0.3	+0.3
平年偏差	-1.0	-1.8	-0.8	-0.4	-2.5	—	+0.9

(b) 4月28日



黒潮は八丈島付近の冷水域を迂回した後、御蔵島の東から房総半島沖へ北東に流去している。

	大島	新島	式根島	神津島	阿古	御蔵島	三根
水温	16.1	16.4	18.0	16.2	18.1	18.9	18.1
前日差	-0.1	-0.5	—	—	—	—	-1.3
平年偏差	-1.6	-2.1	-0.7	-2.0	-1.6	—	-1.2

図2. (a) 2014年4月25日(金)と(b)4月28日(月)の海水温分布。水温データは東京都島しょ農林水産総合センターの海の天気図よりとった。

うことでしょうか。それに、図1に示したようにマカドの潮は御蔵からのちょうどいい潮が一日中続いています。

石井: タックルと仕掛けを教えてください。

浅野: 朝一番に竿を出すためと、いざ撤収というときには振出竿が便利です。ダイコーの振出南方竿は硬めで先調子なのが好みます。

仕掛けは図4に描いたようにきわめてオーソドックスです。ピトンに竿をかけたらず糸を張らずに待つので、根ずれ対策は重要になります。22号の太い糸を使い、瀬ずれワイヤーも1.5m付けています。ワイヤーハリスは37番で長さは25cm程にしています。

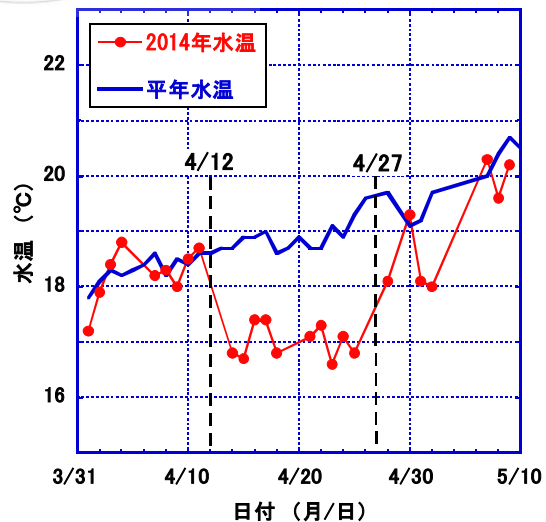


図3. 2014年4月の三宅島の水温変化。水温データは東京都島しょ農林水産総合センターの海の天気図よりとった。

これはウニを 3 个数珠掛
けにするためです。

捨て糸は1mです。長
すぎると神津向かいでは
投げにくくなります。この
場所は急深でかけ上がりの
段々の中に餌をうまく
置かないといけません。
捨て糸が短いと餌が海底
の海藻や糸ごみに隠れる
ため、餌取りは食います
が本命のイシモノは食っ
てくれません。かつてイシ
ダイの就餌行動を水族館
で観察したところ、餌を口

に入れて少しでも違和感がある時は餌を吐き出していました。違和感なしに食わせる
ためにもある程度の捨て糸の長さが必要です。

針は普通 18号を使っています。仲間はすっぽ抜けがいやなので20号を使っている
ようですが、カンヌキにしっかり掛ければ 18号で十分です。

石井: イシモノ釣りにはまったきっかけについてお聞かせください。

浅野: もう 45 年も前ですが、外房太海に行ったときに地元の漁師に聞いてイシモノ釣
りを始め、強烈なひきにはまってしまいました。40 年前に三宅島三本に行く同好者が
集まってシルバー磯釣クラブを立ち上げました。その時に全磯連に入りました。

石井: 全磯連に加入していてよかったと思ったことと、若手の方に一言をお願いします。

浅野: すぐ思いつくのは3つです。

- (1) 同好の仲間ができること。仲間ができれば楽しいし情報も集まります。
- (2) 釣場での安全と安心感が高まること。ライフジャケットの背にクラブ名と名前が書
いてありますので、初対面の方も気楽に話しかけてくれます。すぐに釣り仲間
なれます。
- (3) 祝福してもらえること。大型魚を釣れば釣るほど多くの方に祝福してもらえるのも
ありがたいことです。私事ですが、今回は親戚中で大騒ぎでした。おかげで家中
のお酒は空になりました(笑)。

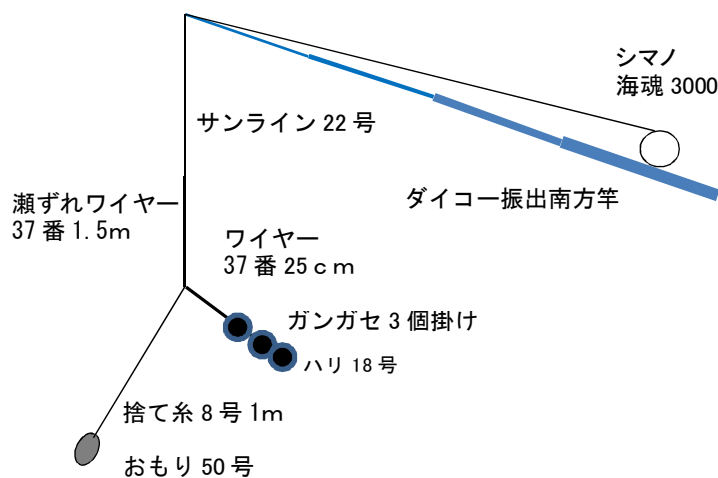


図 4. 浅野氏のタックルと仕掛け

一言ですか、そうですね昔の言葉をもじって“愚直にして極めざる者なし”ですかね。私の今回のお話は私なりの釣りスタイルです。このスタイルが正解かどうかは分かりませんが、40年も神津向かい一筋に愚かと言われようが釣り場を極めるのが一番だと信じてやってきました。若手の方には、今回の私のお話が何かの参考になればと思っています。

石井:最近、磯釣りは雑誌や TV でとりあげられる機会も少なくなりました。そこで、表彰式の機会に他会の方のお話を伺いたいと思い、浅野さんをお願いしました。私のようなチビワサ師はどうしても隣の釣り人がナイロンハリスを使用していると動揺してしまいますが、浅野さんがクラシックな釣法でチャンピオンになられたというお話を伺い安心しました。貴重なお話をしていただき、どうもありがとうございました。

浅野桂一(あさの けいいち)氏のプロフィール

シルバー磯釣クラブ会長、全日本磯釣連盟関東支部事業次長、茨城県出身。釣り歴 45 年の三宅島三本マカド神津向かい専門釣り師。獲得タイトルは多数、最近のタイトルは下記。

平成 25 年 全日本釣り選手権大会イシガキダイの部準優勝

平成 26 年 関東支部磯投げ大会イシガキダイの部優勝、第 25 回全日本イシダイ(イシガキダイ)選手権イシガキダイの部準優勝、平成 26 年度関東支部イシガキダイの部チャンピオン、三宅島最優秀釣魚賞

